

第87号正誤表

雑誌名	集刊東洋学
巻	87
発行年	2002-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10097/00132578

り、彼の個人的資質に引きつけて宰相権の肥大を論じている感がある。

しかるに、高宗即位後間もない建炎三年（一一二九）の四月庚申詔により、元豊官制が改変され、同中書門下平章事・参知政事が復置された結果、以後、三省に及ぶ権限を宰相が有するようになった（三省合一）。かかる制度下では、長期に亘って独員の宰相が在任し続けた場合、北宋官制の基本理念である権限分散化志向から乖離した状態を招来しうる。一方、当該詔がくだされる一ヶ月前、「明受の変」によって高宗は即位の非正当性を指摘され、退位を迫られた。反乱鎮圧後の高宗復位に際し、一旦否定された高宗在位の正当性を補強する材料として、士大夫側は、高宗の伯母孟氏（哲宗の廃后）の「權威」と、それに関連させて三省合一を持ち出した形跡がある。宰相権肥大化の制度的端緒であろう三省合一が、高宗の復位と近接した時期に為された事実は一切何を意味するのであろうか。

本発表では孟氏を手がかりに三省合一が何を目的として行われた制度改変であるのか、その政治的側面について考察を加える。この三省合一を命じた建炎の詔がくだされるまでの経緯を見ていく事により、専権宰相についてその政治的・制度的発端を明らかにする試みとしたい。

87 号正誤表

116	72	70	70	70	36	32	16	8	頁
	上	下	上	上	下	上	上	上	段
20	16	10	10	6	17	9	16	18	行
121) の 4	一九八六	一九一九	一九六七	一九八五	四、	四、	際	II	誤
112) の 5	一九八八	一九二〇	一九六八	一九八七	四	四	差異	III	正